



『決意表明』

京都府
京都尚武館
小学5年生 森 一 晃

京都尚武館は京都府八幡市、石清水八幡宮の麓で稽古をしていて稽古始めは八幡さんで奉納稽古と一年間の必勝祈願をし、3月には卒部式、昇級式をします。僕達はいつも八幡さんに見守られ稽古をしています。

母に連れられて剣道を習い始めた頃は、なんとなく稽古に行っているだけでした。でも、今は違います。僕には諦めたくない夢があります。転校や引越しをした僕は、保育園や学校の友達と遊ぶ事がなくなりました。だから週4回稽古を一緒にしている仲間は、すごく大切です。お互い負けたくない相手だけど、一番信頼している仲間と引き合わせてくれた剣道は、僕にとってはかけがえのないものになっています。

去年引越した時、「道場が遠くなる為、通うのは無理ではないか。」と父から言われ、物凄く不安になりました。

「京都尚武館のみんなと武道館に行きたいから道場は辞めたくない。監督として相手チームに尚武館の先生が座ってはるなんて考えられない。僕は尚武館で剣道がしたい。」と何度も何度も両親に頼みました。両親も納得してくれ、今も稽古に励む日々が続いています。

全国予選の前日、予選突破の祈願の為、八幡さんにお参りをしました。その時点ではやるべきことは精一杯やったつもりでいました。

しかし、結果、中堅の僕が負けてしまい武道館に行く夢は果たせず、全国大会が開催されている今日、7月30日にこの作文を書いています。書いていても胸がざわざわして落ち着きません。先生が、予選で負けた僕たちにくださった言葉が頭を支配しています。

「頑張る事。頑張る事は、しんどいと思う時に諦めない事。それは、自分に勝つと言う事だ。」怒られるのではなく、諭す様に話されたのですが、胸の奥がギュッと締め付けられました。僕は頑張っていたのか、諦めなかったのか、考えました。そして頑張ったつもり、諦めなかったつもり、ただの「つもり」だった事に気付きました。全国大会に出場される中学生の先輩が、必死に稽古されていた姿を思い出すと、僕の姿勢、気持ちとは雲泥の差があり、間近で見ていたのに何故もっと頑張らなかったのか、悔やまれてなりません。

八幡さんは、そんな僕をちゃんと見ていて努力の足りなかった僕にもう一度努力する機会を与えてくださったのだと思います。だから敢えて今日この作文を書いて気持ちを引き締め、僕の決意表明とします。

京都尚武館では、稽古の始まりに道場訓を大きな声で読み上げます。その中に「一、私達は元気な挨拶をします。」という一文があります。日常の挨拶が自然に出来るようになると相手と向き合い、自分に向き合い、礼に始まり、礼に終わる本当の剣道に一步近づくと感じます。小学生の僕でも出来る事なので率先してやってみようと思います。

このように、いつも剣道について考えていると楽しくて早く稽古に行きたくなります。

「僕は剣道大好きや。」と思わず、母に言った時、「そんなにはっきり言い切れるものに出会える事は大人でもそうないよ、大好きなものが出来て良かったなあ。お母さん応援するわ。」と言ってくれました。凄く嬉しかったです。

くださったのだと思います。だから敢えて今日この作文を書いて気持ちを引き締め、僕の決意表明とします。

京都尚武館では、稽古の始まりに道場訓を大きな声で読み上げます。その中に「一、私達は元気な挨拶をします。」という一文があります。日常の挨拶が自然に出来るようになると相手と向き合い、自分に向き合い、礼に始まり、礼に終わる本当の剣道に一步近づくとと思います。小学生の僕でも出来る事なので率先してやってみようと思います。

このように、いつも剣道について考えていると楽しくて早く稽古に行きたくなります。

「僕は剣道大好きや。」と思わず、母に言った時、「そんなにはっきり言い切れるものに出会える事は大人でもそうないよ、大好きなものが出来て良かったなあ。お母さん応援するわ。」と言ってくれました。凄く嬉しかったです。

剣道を通じて尊敬する偉大な先生、先輩、一緒に頑張ろうと思える仲間に出会えた事は素晴らしい事だと思うし、大人になっても剣道続けるだろう僕は、宝物を早くも手にしているのかも知れません。

これからも僕が負けない心と諦めない勇気を持ち、信頼出来る仲間と少しずつでも走り続ける事が武道館に続く道だと思います。

先日、災害の影響で、いまも剣道が出来ない剣士がおられる事を知りました。みんなに支えられ剣道出来る事に感謝し、来年こそ八幡さんにも認めてもらい絶対に武道館の試合場に立ちます。

「僕は、自分に勝つ。」